

野菜販売で自立応援

生活保護の
受給者利用

「心音」が22日から

帯広電信通

帯広市内の電信通り商店街にある市民のための相談所「傾聴所心音(こころね)」(東4南6)の利用者が、22日から11月4日まで同商店街の駐車場(東2南6)で、市内で収穫された野菜を販売する。同所には自立・就労を目指す生活保護受給者が通っており、販売・接客体験を通して自立のきっかけにしようのが狙いだ。

心音は、市民が話したいことや聞いてほしいことを気軽に話す場として昨年11月にオープンした。社会福祉法人慧誠会の帯広ケア・センター(片平修所長)が運営し、職員が共感を持って話を聞く「傾聴」を行っている。

また、同センターは市の生活保護受給者自立支援事業を受託。受給者は農作業や花壇整備に取り組んでいることもあり、心音にも約20人が通っている。一緒に

昼食を作るといった共同作業をしたり、悩みを打ち明けするなど、受給者が交流する場にもなっている。

今回は同センターで栽培した野菜の販売や接客を利用者が日替わりで担当。客や商店街で働く人たちと触れ合い、働くことの楽しさを受給者に知ってもらおう。

心音の運営責任者を務める齊藤修司さん(同センター職員)は「生活保護は不正受給が取り上げられることが多いが、実際は自立し

ようと頑張っている人も多いことを知ってほしい」と話している。

野菜はゴボウやジャガイモ、タマネギなどを用意。漬物用など大量の注文も受け付け、商店街周辺であれば配達する。販売は午前10時～午後1時。問い合わせは心音(080・6066・6668)へ。

(深津慶太)